

コウノトリ等の多様な生物と共生する 地域づくりのための行動計画

利根運河周辺エリアにおけるエコロジカル・ネットワーク形成に向けて

第2期 推進計画
(2021～2030年)



1. はじめに

～利根運河周辺エリアにおけるコウノトリの舞う地域づくりの目指すもの～

「利根運河」は、江戸川と利根川を結ぶ船の道として、明治23年に開削された人工河川です。運河としての役割を終え、現在は、歴史的な産業遺産であるとともに、さまざまな水辺生物の生息・生育場や人びとの憩いの場となっています。

千葉県・埼玉県・茨城県内の各市町を含む利根運河を中心としたエリアは、河川・湖沼・水田等の水辺環境が広がる自然豊かな地域です。

この利根運河周辺エリアにおいて、多様な地域関係者が連携・協力して水辺環境の保全・再生を図り、エコロジカル・ネットワークの形成を推進するとともに、生物多様性の向上を地域振興・経済活性化へとつなげ、「多様な生物と共生する魅力的な地域づくり」を実現することを目指して、2014年（H26）に「コウノトリの舞う地域づくり連絡協議会（江戸川・利根川・利根運河地域）」を設立しました。

【目 標】

- 利根運河周辺エリアのさまざまな場所において、**水辺環境等の保全・再生・創出**を推進し、広域連携により、自然のつながり「エコロジカル・ネットワーク」を形成します。
- この取り組みを、**地域振興・経済活性化**につなげ、「**多様な生物と共生する魅力的な地域づくり**」の実現を目指します。



美しい曲線を描きながら流れる
利根運河（一級河川）



利根運河に近接する水田環境の例
（野田市 江川地区）



利根運河周辺エリア

※この地図は、国土地理院長の了承を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製したものである。
(承認番号 平成28情複 第1390号)

2. これまでの振り返り

2.1 行動計画の作成

「コウノトリの舞う地域づくり連絡協議会（江戸川・利根川・利根運河地域）（以下、コウノトリ連絡協議会）」では、目標達成に向けて、『コウノトリ等の多様な生物と共生する地域づくりのための行動計画（2016.2）』を作成しました。

この計画は、関東地方における生態系ネットワーク形成の推進方針が示された「基本計画」に即し、利根運河周辺エリアにおいて、地域関係者が連携・協働で推進することが効果的な対策メニューを、「定着地づくり」と「人・地域づくり」の2つのテーマに分けて、行動計画（アクションプログラム）として整理したものです。

連絡協議会は、各プログラムが、関係機関によって広く取り組まれ、また関係機関が連携・協力することで取り組みがさらに充実されるよう、連絡・調整を図っていくものです。

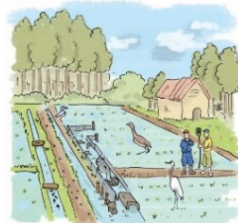
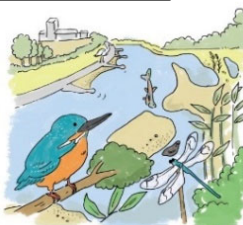
『コウノトリ等の多様な生物と共生する地域づくりのための行動計画（2016.2）』

目標達成に向けた具体的な対策メニューを以下2つのテーマ別に行動計画（アクションプログラム）として整理したものの。

- 多様な生物のすむ「定着地づくり」：河川・水田・樹林地などの保全・再生・創出に関する対策メニュー 31項目
- 多様な生物を育む「人・地域づくり」：生物多様性の向上を通じた地域振興・経済活性化に関する対策メニュー 46項目
- ※工程計画：関東地方における取り組み推進のロードマップ（到達目標2050年、中期目標2030年、短期目標2020年において達成状況を確認しながら進める）に準じる。

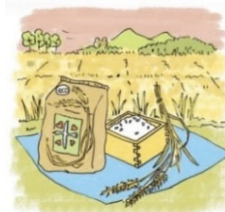
アクションプログラム「定着地づくり編」概要

- 現状把握・計画（エコネット形成に向けた調査、簡易な調査マニュアルの作成、環境整備手法の整理 など）
- 河川における生息環境の整備（切下げによる浅場創出、多様な湿地環境の創出、河川や流入箇所落差解消、ビオトープの整備 など）
- 農地における生息環境の整備（退避池・中干し延期・冬期湛水等の水田における環境保全対策、農業用排水路内の落差の解消、荒廃農地におけるビオトープ整備 など）
- 営巣地・里山林づくり（里山の保全・管理、条例・制度等を活用した斜面林の保全、コウノトリ人工巣塔の配置 など）



アクションプログラム「人・地域づくり編」概要

- 現状把握・計画（情報収集・整理、自然環境の経済的価値評価、関係機関の意識動向の調査 など）
- 多様な関係者が参加するための仕組みづくり（情報共有・発信、環境・食農の学習プログラムの普及、環境調査や維持管理への参加推進 など）
- 生物多様性の向上による地域振興・経済活性化の推進支援（エコツーリズム・グリーンツーリズムのマニュアル作成、エコ農産物の生産・販売促進支援、コウノトリ等をシンボルとした商品開発支援 など）
- 取り組みの継続・発展に向けた仕掛けづくり（民間活動への支援検討、人材登録や養成講座による人材育成 など）



2. これまでの振り返り

2.2 行動計画に基づくこれまでの取り組み（第1期の成果と課題）

これまで、本連絡協議会では、行動計画に基づくいくつかの取り組みを「重点プログラム」と位置付け、地域関係者の参加・協力をいただきながら進めてきました。

また、それぞれの地域においても、市民団体・研究者・自治体等により、行動計画に関連する各種取り組み（例：コウノトリ飼育・放鳥、河川における湿地環境の保全、環境保全型農業への支援、自然環境調査や自然観察会、等）が実施されています。

本資料は、短期目標年である2020年にあたって、これまでの成果と課題を振り返り、これからの計画を整理したものです。

これまでの取り組み（～2020年）

[重点プログラム:連絡協議会が地域連携で実施]

全プログラムのなかから、組織的に取り組むことが効果的かつ当面実施することが可能な対策「重点プログラム（短期目標年2020年まで）」を選定して取り組みを進めた。

★**定着地づくり**：『水田の動物量調査の手引き』の作成、およびそれを活用した現地調査 など

★**人・地域づくり**：『取り組み認知度向上のための広報』の検討、およびそれを活用したPR活動 など

[地域関係者それぞれによる取り組み]

■**定着地づくり**：生物調査の実施、河川環境の整備、谷津田環境の保全・再生、環境保全型農業の推進、人工巣塔の設置 など

■**人・地域づくり**：自然観察会の開催、エコツーリズム推進の検討、コウノトリ見守りボランティアの設立 など

■**たね地づくり**：コウノトリの飼育・放鳥 など

令和2年（2020年：短期目標年）

- これまで（第1期）の成果と課題を整理（p5～7）
- これらを踏まえ「第2期推進計画」を作成（p9～11）

⇒第2期推進計画に基づき、2021年度以降も取り組みを発展的に継続していく。

■これまでの成果（関東エコネット基本計画における短期目標と照らし合わせた進捗確認）

（1）コウノトリ生息環境整備・推進（定着地づくり）に係る進捗

短期目標
(2020年)

関東地域の河川で治水と環境が一体となった湿地の整備・保全が、農地では生物多様性を育む農地や基盤整備の取り組み等が進められている。

⇒【推進中】江戸川で湿地環境に配慮した河道掘削が実施された。各市で環境に配慮した農業が推進されている（例：野田市の減農薬黒酢米、柏市谷津保全指針による湿地保全）。



野田市 江川市民農園で採餌するコウノトリ（2020.7.31撮影）

（2）コウノトリ地域振興・経済活性化（人・地域づくり）に係る進捗

短期目標
(2020年)

関東地域におけるコウノトリの野生復帰の取り組みに多くの市民が参加し、協力する市民団体や企業等が広がっている。

⇒【着手段階】野田市では、企業助成金を受けるなどしながら、市民ボランティアガイド等の地域連携による取り組みを進めている。



ボランティアガイドさんのコウノトリに関する説明（このとりの里）

（3）コウノトリ飼育・放鳥条件整備（たね地づくり）に係る進捗

短期目標
(2020年)

関東地域の複数の流域において、コウノトリの飼育・繁殖、野生復帰に向けた取り組みが推進されている。

⇒【達成（継続中）】野田市（このとりの里）により飼育・放鳥が進み、放鳥個体が関東圏内（渡良瀬遊水地）で繁殖するに至っている。



渡良瀬遊水地第2調節池で子育てするコウノトリ（2020.7.24）

2. これまでの振り返り

(1) 第1期の成果と課題 ～定着地づくりに関する取り組み～

① 連絡協議会におけるおもな取り組み（重点プログラム）

●『水田の動物量調査の手引き』の作成

- ◎水田の動物の豊かさとともに、コウノトリ採餌環境ポテンシャルを調べることでできる調査手法をとりまとめました。
- ◎研究者監修（兵庫県立大、東邦大）のもと、地域関係者と協働（調査水田のご提供、モニター調査者としての参加）で作成・公開しました。

●『水田の動物量調査の手引き』を活用した調査体験会の実施

- ◎H29年度：モニター調査会（合計 3箇所／6回／のべ約名60参加）
- ◎H30年度：モニター調査会（合計 3箇所／3回／のべ約40名参加）
- ◎H31年度：田んぼの生き物調査体験会 1回／約70名参加
- ※参加者のべ約200名（エリア内の市民・市民団体、行政関係者、研究者 等）



② 地域関係者による取り組み（関連する事例）

- ◎市民団体等：自然環境調査、自然観察会、河川・農地・里山林の環境保全・維持管理活動 など
- ◎周辺自治体：自然環境調査、条例による谷津環境や里山林の保護、河川清掃・美化活動 など
- ◎河川管理者：河川環境の保全（湿地再生）、河川の連続性改善（魚道整備） など
- ◎利根運河協議会：利根運河の希少植物の保全活動、外来植物の駆除活動、生物データベースの構築 など

【**成果**】河川・農地等における取り組みは地域関係者により各所で推進中、連絡協議会では調査の手引き作成等の支援を行うことができた（調査の体験会やモニター調査を通じて地域の人びとに「水田の生きものの豊かさ」を伝えることもできた）。

【**課題**】エリア内でのコウノトリ定着には至らなかった。連絡協議会の取り組み対象(実施箇所や内容)が限定的であった。地域関係者の取り組みは先進的・効果的な事例があるが、取り組みや効果拡大のための連携支援は十分に図れなかった。

【**今後の方針案**】対象エリアや対象者を広げ、アプローチの仕方も工夫しながら、A.河川や農地の保全・再生の促進を継続するとともに、B.地域関係者による取り組みの継続や効果拡大に資する連携・調整支援を行う。また、C.コウノトリの定着に向けた新たな取り組み（餌場・繁殖場の保全・創出等）についても検討する。

2. これまでの振り返り

(2) 第1期の成果と課題 ～人・地域づくりに関する取り組み～

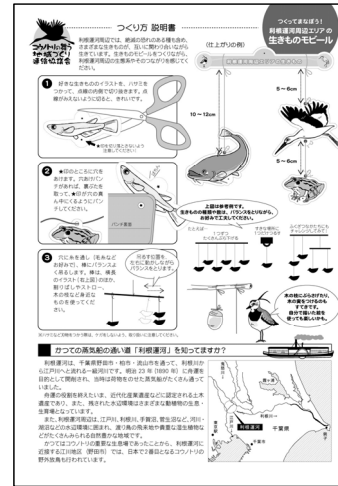
① 連絡協議会におけるおもな取り組み（重点プログラム）

●取り組み広報用資料の作成（5種）

◎連絡協議会ロゴマーク／◎連絡協議会PRポスター（コウノトリやオオタカ幼鳥 計3パターン）／◎生きものモビールキット（コウノトリやオオタカを頂点とした生態系ピラミッド型のモビールを学びながらつるもの）／◎調査用のぼり旗／◎生きものイラストデータ集（関係者が自由につかえる）

●広報用資料の配布・展示（約30箇所）

◎連絡協議会関係者にご協力いただき、市民団体・学校・自治体等の施設や行事において、上記広報用資料の展示・配布を実施していただいた。



② 地域関係者による取り組み（関連する事例）

- ◎市民団体等： シンポジウム・発表会・勉強会の開催 など
- ◎周辺自治体： 自然学習・営農体験の行事、環境系の展示イベントの開催、ツーリズム推進、地域の農産物の販売支援 など
- ◎河川管理者： インフラツーリズムの推進、地域関係者への支援 など
- ◎利根運河協議会： 歴史探訪ウォーキングの開催、利根運河の利活用推進に関する意見交換、民間企業との連携方策の検討 など



【成果】豊かな自然を活かした各種行事等は地域関係者により各所で推進中、連絡協議会では取り組み広報による支援を図った（広報用資料を作成し、地域関係者の開催行事等で活用いただいたこと通じ、生きものの豊かなエリアであることをPRできた）。

【課題】連絡協議会の取り組み対象（実施箇所や内容）は限定的で、成果を地域振興・経済活性化につなげるには至らなかった。それらに必要な、地域関係者の連携促進を十分に図ることができなかった。

【今後の方針案】地域関係者（連絡協議会内外）と連携し、D.取り組み成果を地域振興(観光・商業)につなげる工夫を検討する。また、これまでのE.取り組み広報は対象を広げながら継続するとともに、F.将来的に取り組みを継続・発展させていくための仕掛けについても新たに検討していく。

2. これまでの振り返り

(3) 第1期の成果と課題 ～たね地づくりに関する取り組み～

◎ 地域関係者による取り組み（野田市事業の主な経緯）

- 平成23年：コウノトリの生息域外保全・野生復帰に関する有識者会議を設置
- 平成24年：江川地区にコウノトリ飼育施設「こうのとりの里」を整備。コウノトリ2羽の飼育を開始（毎年2羽程度を増殖に成功）
- 平成27年～30年：毎年、コウノトリ幼鳥（1～3羽）を試験放鳥
- 平成26年：ガイドボランティアの募集開始（養成講座の開催）
- 平成28年：ボランティアガイドと見守りが融合した「野田市コウノトリボランティアの会」発足（以降、市民連携による見守り活動、ガイド活動、親子学習会等の取り組みを継続）
- 令和元年～2年：毎年、コウノトリ幼鳥（1～2羽）を放鳥
- 令和2年：放鳥個体含むペアが、渡良瀬遊水地にて営巣、野外繁殖に成功（野生絶滅以降、東日本では初の孵化。2羽の雛が巣立つ）



野田市「こうのとりの里」で孵化した個体



平成27年に放鳥された3羽（写真は飼育施設内）



野田市 コウノトリ放鳥式典（H27.7.23）



渡良瀬遊水地の人工巣塔で孵化したコウノトリと観察する人びと（小山市 渡良瀬遊水地第2調節池 2020.7.24）

【成果】 野田市では平成27年から継続して飼育・放鳥を行っており、近年、関東エリア内に放鳥個体を含めた多くのコウノトリが飛来するようになった。また、それらの個体の1ペアが渡良瀬遊水地にて繁殖する成果にいたった。

【課題】 上記の取り組みは、野田市が関係機関（専門家や市民等）と連携しながら進めており、本連絡協議会の取り組みは情報共有までで留まった。将来的に、関東地域に野生個体が増えていくことを想定すると、今後、エリア内でも地域連携による対応の必要性が考えられる。

【今後の方針案】 将来的に、利根運河周辺エリア内にコウノトリ野生個体が増えていくことを想定し、たね地づくりに関する取り組み計画のなか※で、利根運河周辺エリアで実施すべきものがないか見直し、必要なものを第2期推進計画に追加する。

※たね地づくりは（野田市により飼育・放鳥が進んでいたことから）、利根運河周辺エリアではアクションプログラム（H27.2）の作成対象外であったため、関東地方における基本計画「関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本計画（H28.3）」に基づき検討する。

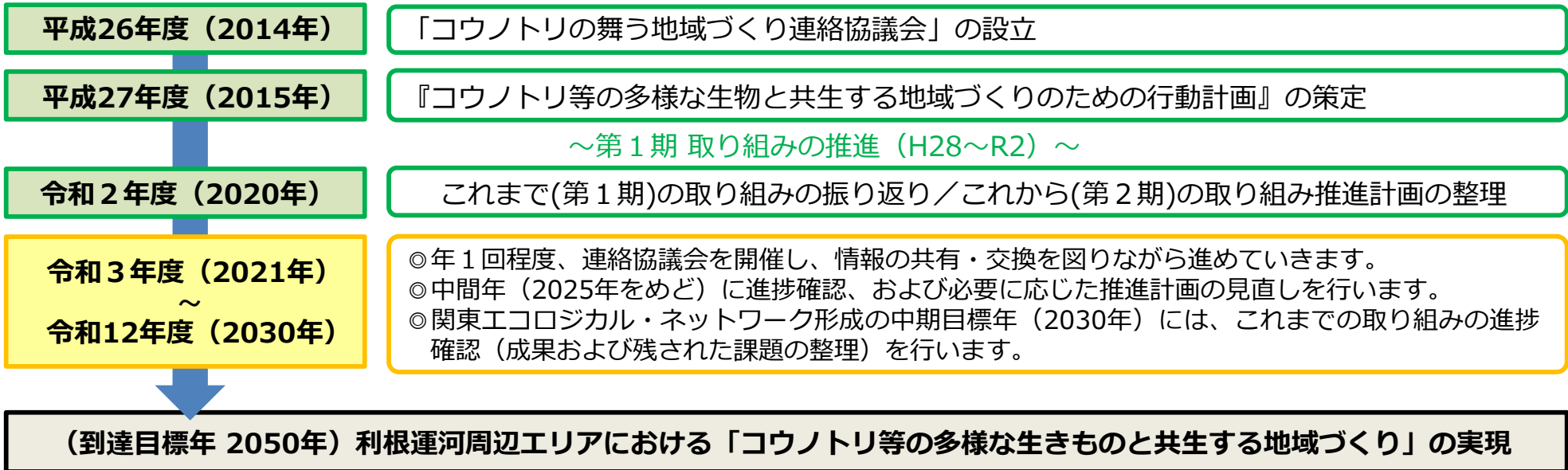
3. これからの取り組み（第2期 推進計画）

3.1 計画の位置づけ

第2期推進計画（本資料）では、これまでの取り組みの成果と課題を踏まえ、利根運河周辺エリアにおいて、地域関係者の皆さんと連携・協力しながら、今後およそ10年間で重点的に取り組む対策内容を、定着地づくり、人・地域づくり、たね地づくりの3つのテーマごとに整理（p9～11）します。

【第2期推進計画】 利根運河周辺エリアの水辺環境の保全・再生によるネットワーク化を通じて、さまざまな生きものがすみやすく・人も暮らしやすい地域づくりを、地域の皆さんと連携・協力して目指すための計画です。

- **位置づけ**： 目標達成のために効果的な連携・協働によるアクションプログラム、およびこれまでの取り組み成果・課題を踏まえ、今後およそ10年間で重点的に取り組むことを目指す事項です。
- **役割分担**： コウノトリ連絡協議会に参加する地域関係者が可能な範囲で連携・協力して実施することとして、連絡協議会事務局が企画・調整・情報共有・連携促進を図ります。
- **対象期間**： 2021～2030年（中間年の2025年をめどに進捗確認と必要に応じた計画見直しを行います。）



3. これからの取り組み（第2期 推進計画）

2030年目標（関東エコネット形成における中期目標）

コウノトリの関東地域個体群が自活して繁殖・生息できる
湿地環境の改善が、流域一体となって進められている。

3.2 計画の内容

（1）多様な生物のすむ「定着地づくり」のための対策

利根運河周辺エリアにおいて、コウノトリも定着できる「生きもの豊かな水辺環境（河川・農地・里山林）」が保全・再生されるよう、各地域の取り組みを支援していきます。

A. 地域連携による生きもの調査の促進【発展的継続】

（これまでの課題）水田調査体験会の地点・回数・参加人数は限られており、十分な効果が得られたとはいえない。

- **実施内容：** 「水田の動物量調査の手引き」を活用するなどした生物調査体験会の定期的な開催、また、地域関係者による調査への支援（機材の貸出し、調査手法の解説等）を実施します。
- **対象範囲：** 利根運河周辺エリア全域（野田・柏・流山市を含め広くエリア全体へ展開します）
- **期待する効果：** 河川・農地における環境調査が広く実施され、それを通じて、エコネットの取り組み（生物多様性に配慮した河川・農地の環境整備）への地域の理解・賛同につながる。



B. 取り組み発展のための連携促進【発展的継続】

（これまでの課題）地域関係者の先進的・効果的な取り組みは、情報共有や連携調整により効果が拡大できる可能性がある。

- **実施内容：** 地域関係者による取り組みの情報共有・連携促進を図ります（例：魚道整備による連続性改善、条例による斜面林保護、外来種駆除における工夫点等の有用な情報の収集・発信、勉強会の企画等）。
- **対象範囲：** 利根運河周辺エリア全域（野田・柏・流山市を含め広くエリア全体へ展開します）
- **期待する効果：** 河川・農地・里山林の取り組み、またその効果や効率が向上するなどし、地域関係者の参加メリットも高まっていること。

C. コウノトリ定着に向けた営巣・採餌環境整備の検討【新規】

（これまでの課題）関東での野外繁殖が確認されたが、エリア内でのコウノトリ定着（≡繁殖）には至らなかった。

- **実施内容：** 営巣環境（高木や里山林等）や採餌環境（水系の連続性等）に関する情報の収集・整理を行うなどし、コウノトリ定着に向けて必要なことを検討します。
- **対象範囲：** 利根運河周辺エリア全域
- **期待する効果：** 利根運河周辺エリア内におけるコウノトリの定着。また、それにより地域関係者の参加意欲が高まっていること。

3. これからの取り組み（第2期 推進計画）

2030年目標（関東エコネット形成における中期目標）

コウノトリ・トキと共にくらせる地域を誇りとし、地域経済・社会を構成する様々な主体の参加でにぎわっている。

3.2 計画の内容

（2）多様な生物を育む「人・地域づくり」のための対策

利根運河周辺エリアにおいて、コウノトリなどさまざまな生きものが豊かであることが、地域の魅力として活用されるよう、各地域の情報や活動の連携支援を行います。

【発展的継続】

D. エコツーリズム・グリーンツーリズムの推進支援

（これまでの課題）地域振興の取り組みに必要な地域関係者（観光・商工等）との連携・調整が十分でなかった。

- **実施内容**：広く地域関係者と情報・意見交換を行い、生物多様性の恵みをいかした観光推進に関する支援を行います。（例：自然観察・営農体験イベント情報の共有、サイクリングや野鳥観察スポットや特産品等のエリア内情報のとりまとめ配信など。）
- **対象範囲**：利根運河周辺エリア全域（野田・柏・流山市を含め広くエリア全体へ展開します）
- **期待する効果**：エリア内において、コウノトリや生物多様性を活かした地域観光が推進され、新たな集客要素の提供を通じて地域活性化へ貢献すること。



E. コウノトリの舞う地域づくりの広報【発展的継続】

（これまでの課題）広報活動の種類・場所・回数・人数は限られており、十分な効果が得られたとはいえない。

- **実施内容**：取り組み推進に役立つ情報発信（SNS等も活用）や、自然・農業等に関する施設や行事での展示・資料配布等による広報活動（取り組みPR）を行います。
- **対象範囲**：利根運河周辺エリア全域（野田・柏・流山市を含め広くエリア全体へ展開します）
- **期待する効果**：本取り組み、および利根運河周辺エリアの魅力の認知度を向上させ、広く賛同者・参加者を増やすこと。

F. プロジェクトの継続・発展に向けた仕掛けの検討【新規】

（これまでの課題）「しかけづくり」はほぼ未着手で、誰が主体となって、どのように行うかの検討・調整が必要である。

- **実施内容**：広く地域関係者と情報・意見交換を行い、取り組み継続・発展および成果を地域に還元するためのしかけの検討（民間活動を支援する情報提供、顕彰制度、資金や人材育成・紹介等）を行う。
- **対象範囲**：利根運河周辺エリア全域（野田・柏・流山市を含め広くエリア全体を対象とします）
- **期待する効果**：生態系ネットワーク形成に関連する各種取り組みが、自発的・持続的に実施されるようになること。

3. これからの取り組み（第2期 推進計画）

2030年目標（関東エコネット形成における中期目標）

コウノトリの関東地域個体群の形成が進んでおり、日本全国および東アジアにおける個体群間の交流がはじまっている。

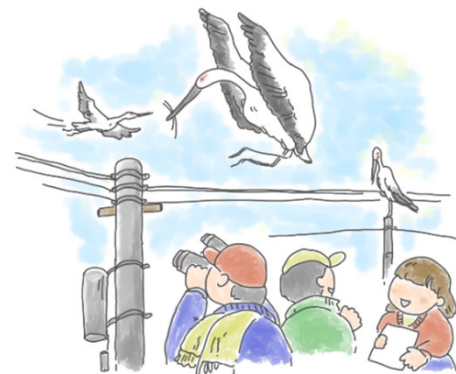
3.2 計画の内容

（3）コウノトリ野生復帰の「たね地づくり」のための対策

今後、利根運河周辺エリア内へのコウノトリの飛来が増えていくことを想定し、社会的な理解・賛同が深まるよう、**飛来・定着した地域への支援を検討**します。

G.コウノトリを受け入れる社会環境づくりに関する検討【新規】

- **実施内容：** 今後、関東地方にコウノトリ個体群が形成されることを想定し、エリア内で連携して対応することが有用な事項、またそれらを共有する仕組みについて検討を進めます（飛来情報の共有、飛来した場合のお願い事項・対処方法・注意事項などの情報共有、他エリアの活用事例に関する勉強会企画等）。
- **対象範囲：** 利根運河周辺エリア全域
- **期待する効果：** コウノトリが飛来・定着した場所で、地域関係者が対応に困ることのないよう図ること。また、それにより、取り組みへの理解・賛同が深まり、参加者が増えること。



生きものがすみやすい場所は、人も、きっと、暮らしやすい

この計画は、利根運河周辺エリアのさまざまな人・さまざまな場所・さまざまな活動をつなげ、コウノトリをはじめとする多様な生物のすみやすい地域を育み、さらには、そこから得られる自然の恵み（たとえば、いまよりも豊かで・安心して・にぎわいのある暮らし）を、エリア内の多くの人びとと分かちあう未来を目指してつくられています。

これからも、多くの皆様のご賛同・ご参加をよろしくお願いいたします。